

該当頁に関連記述がなく、理解し難い。

刀狩と  
太閤検地

豊臣秀吉は、刀狩令<sup>(一P.28)</sup>を出して、農民から武器をとりあげました。これによって、農民が武力で紛争を解決する社会が否定されました。また、年貢を確実に取るため、ものさしやますを統一し、田畑の広さや収穫高を調べ、耕地ごとに農民を登録しました。そして、その農民に生産高に応じた年貢をおさめさせました(太閤検地)<sup>(一P.28)</sup>。

刀狩と  
太閤検地

豊臣秀吉は、刀狩令<sup>(一P.28)</sup>を出して、農民から武器をとりあげました。これによって、農民が武力で紛争を解決する社会が否定されました。また、年貢を確実に取るため、ものさしやますを統一し、田畑の広さや収穫高を調べ、耕地ごとに農民を登録しました。そして、その農民に生産高に応じた年貢をおさめさせました(太閤検地)<sup>(一P.28)</sup>。